



株式会社セキグチデイリー

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2023 年 4月 1日～ 2024 年3月31日)



作成日： 2024年6月10日

目 次

項 目	ページ
ご挨拶・環境経営方針	2
組織の概要	3
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無	8
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

豊かな未来の創造企業

安心安全を追求した生産体制のもと、食を通して社会の幸せに貢献します。



日頃、弊社の商品をご利用頂いている皆様また、弊社をご支援いただいている方へ、心より御礼申し上げます。弊社は、平成元年より、現在の場所を拠点にして、北関東を中心にお客様に喜ばれる商品を製造してまいりました。年々売上が増加する中、環境変化に応じながら工場の増改築を行い、現工場に至っております。弊社の企業方針である、「食を通して」あまねく人々に幸せをお届けする事を推進し国内に留まらず世界の皆様に貢献すべく、日々商品開発から製造、供給まで尽力しております。また、食品製造業として食を通して積極的な環境経営を推進し、永続的な環境負荷の削減に取り組みます。

環境経営方針

<環境経営理念>

企業理念である「豊かな未来の創造企業」を目指して、時流合う取組を行い、より良い社会づくりに永続的に貢献します。その取組の一環で、本業である食品の生産を通じて、地球温暖化等地球規模の問題や地域の課題の解決に向けて自主的・積極的に取り組みます。

安心・安全な製品をお客様に届けるため、働きやすい職場づくりを進める中で、創意工夫による衛生管理の徹底と効率的な生産を目指して、全社一丸となって継続的な改善活動に取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社の公約を遵守します。
2. 効率の良い省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 資源を大切に使い廃棄物の発生抑制につとめ、食品リサイクル率の維持向上に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 洗剤や殺菌剤など適正管理に努めます。
6. 安心で安全な商品を必要な時に必要な量を、お客様にお届けします。
7. 環境循環型社会の実現に向けて取り組みます。
8. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。



制定日：2021年4月1日

代表取締役社長 関口 純一

□組織の概要

- 1) 名称及び代表者名
株式会社セキグチデイリー
代表取締役社長 関口 純一
- 2) 所在地
本社工場 群馬県館林市近藤町2899-35
- 3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 工場長 鈴木 直樹
担当者 生産管理課 主任 柏崎 翔太
TEL : 0276-75-2201
- 4) 事業内容
漬け物・総菜の製造
- 5) 事業の規模
売上高 1,006 百万円
- | | |
|-------|-------|
| | 本社工場 |
| 従業員 | 136名 |
| 延べ床面積 | 1571㎡ |
- 6) 事業年度 3月1日 ~ 2月29日

認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社セキグチデイリー
対象事業所： 本社・工場
活動： 漬け物・総菜の製造

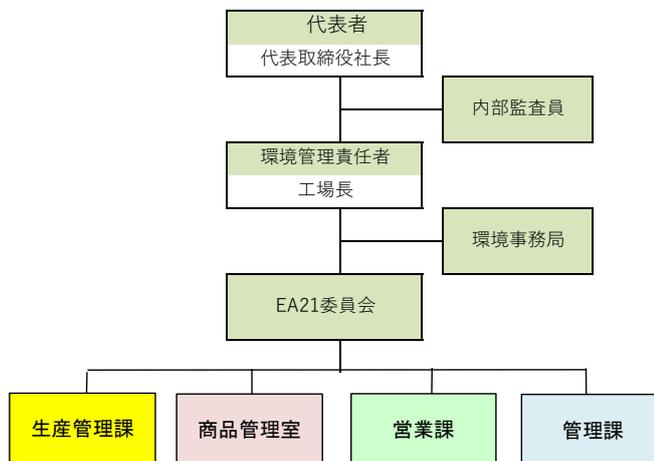
弊社は、平成元年に浅漬け、キムチを専門に製造、卸する為に設立された企業です。また、独自の手法で他のお漬物を仕入れ、卸も行ってあります。主なお客様は、株式会社セブンイレブン・ジャパン様で、群馬県と栃木県にある店舗に製造商品、仕入商品を共同配送で納品しております。

総菜製造業の営業許可証を取得し、野菜加工品の強みをいかして冷菜総菜商品の開発、製造にも力を入れており幅広い品揃えしています。

2014年よりインターネットを活用し、365日製造販売を弊社の強みとし、飲食店、宿泊費、産業給食、ケータリングサービス、高齢者施設運営事業者様に、販売を行っております。また、冷凍の業務用専門商品の開発、販売を初めてから海外へ流用を始めました。



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表



	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐、EA21委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
EA21委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長 工場長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□ 主な環境負荷の実績

項目	単位	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量 (*1)	kg-CO ₂	368,550	368,916
廃棄物排出量			
一般廃棄物排出量	t	72	65
産業廃棄物排出量	t	51	58
食品廃棄物			
発生量	t	253	250
発生抑制量		233	311
再生利用量		23	23
熱回収量		0	0
減少量		230	228
再生利用以外の量		0	0
廃棄物処理量		0	0
食品再資源化実施率		%	100%
水使用量	m ³	39,411	40,966

(*1) 2020年 東京電力エナジーパートナー(株) 二酸化炭素排出係数 0.441kg-CO₂/kWh

□ 環境経営目標及びその実績

項目	年度	2019年実績 基準値	2023年		評価	2024年	2025年
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力 原単位	kg-CO ₂ /百万円	418.8	378.9	361.9	○	352.5	344.5
	基準年度比		90%	86%		84%	82%
液化石油ガス (LPG) 原単位	kg-CO ₂ /百万円	10.8	10.7	9.6	○	9.1	9.1
	基準年度比		99%	89%		85%	85%
ガソリン 原単位	kg-CO ₂ /百万円	6.8	6.7	3.5	○	3.5	3.5
	基準年度比		99%	52%		52%	52%
CO ₂ 総排出量 原単位	kg-CO ₂ /百万円	436.4	396.3	374.9	○	365.1	357.1
	基準年度比		91%	86%		84%	82%
一般廃棄物	t	64.3	63.0	65.0	×	63.0	62.4
	基準年度比		98%	101%		98%	97%
廃プラの削減	kg/百万円	23.3	22.0	30.0	×	22.0	22.0
	基準年度比		94%	129%		94.2%	94.2%
食品廃棄物の再生利用率	自主目標 再生率	100%	100%	100%	○	100%	100%
	食り法目標 再生率	80%	95%			100%	100%
食品廃棄物発生 原単位 農水省目標	kg/百万円	249.0	668.0	251.3	○	668 kg/百万以下 (農水省目標)	
水使用削減 原単位	m ³ /百万円	44.0	43.1	41.1	○	43.1	43.1
	基準年度比		98%	94%		98%	98%
化学物質の適正管理	行動目標 (次項による)						
環境に配慮した製品・サービスへの取組	行動目標 (次項による)						

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

評価：○=取組の効果あり △=さらに取組が必要 ×=取組できていない

		評価	取組結果とその評価、次年度の取組計画
電力によるCO2削減	①空調機の定期的な清掃を行い消費電気削減	○	<ul style="list-style-type: none"> 工場全ての照明をLED化した。 計画通りに空調設備の点検や、清掃も行い問題なし。 デフロスト頻度については、一部の冷凍機で実施した。 冷凍機、空調の温度設定を夏季、冬季で変更する運用を開始した。 老朽化した包装機を、より環境に配慮した包装機に変更したことで、省エネ性及び作業効率が向上した。 【次年度取組】 <ul style="list-style-type: none"> デフロスト頻度の管理を全ての冷凍機設備に展開する。 老朽化した設備の改磨を進める。
	②第一種特定機器 簡易点検 (1回/3カ月)	○	
	③デフロスト頻度管理	△	
	④冷蔵冷凍庫温度一元管理	○	
	⑤作業を効率化し稼働時間削減及び残業抑制	○	
	⑥老朽化設備の改磨	○	
LPGによるCO2削減	①ボイラー室 お湯の止め忘れ防止	○	取組は問題なく行えた。 【次年度取組】 適正な使用を注視して管理する。
	②手洗い水のお湯設定時期の適正化	○	
自動車燃料によるCO2削減	①フォークリフトを更新。燃料ガスタイプに変更。	○	フォークリフトの燃料をガスに変更し、ガソリンが削減され燃費も向上した。 【次年度取組】 外部との商談等は公共機関の利用や、web商談を推奨する。
	②社用車 エコドライブ	○	



一般廃棄物の削減	①ダンボールリサイクル	○	<ul style="list-style-type: none"> 段ボールのリサイクルは継続して出来ている。 紙での記録や請求書を電子化して紙を削減出来ている。 【次年度取組】 更に紙の削減が出来るように、紙の記録から電子化を促進する。
	②再生紙の利用、コピー用紙の削減	○	
	③紙での記録を電子記録化	○	
廃プラの削減	①不動産庫の発生による廃棄を削減	×	<ul style="list-style-type: none"> ・包材規格切換え時の不動産庫が目立って発生してしまった。 ・廃プラからリサイクル可能品を分別し、サーマルリサイクル量を減らす取組を実施した。 【次年度取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・商品終売時の適正な発注量管理を実施、管理者が発注量を確認する。 ・リサイクル可能品を分別し、サーマルリサイクル量を減らす。
	②過剰生産による廃棄を削減	△	
	③軟包材の印字不良などのロス削減	○	
	④仕入れ食材の荷姿見直し	○	
食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	①正確な販売計画を共有し、精度良い生産計画と調整	○	<ul style="list-style-type: none"> ・商品事故は継続して発生していない。 ・野菜全体の加工歩留りは昨年より1%向上。しかし床に野菜が落ちていくことがあるので、落下させない取組が必要。 【次年度取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を床に落下させない取組実施。 ・食材入荷管理体制を強化し、不良品による廃棄をなくす。
	②可食部の廃棄削減	△	
	③不適品品を入荷しない管理	○	
	④商品事故を発生させない管理	○	
水道水の削減	①節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	<ul style="list-style-type: none"> ・洗浄機の無駄使用は減少してきているが、更なる取組が必要。 ・工場内の水漏れは迅速に対応出来てきているが、外周も点検が必要。 【次年度取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月EA21メンバーが現場巡視し、環境経営計画の実施状況や水漏れ箇所がないか工場外周を含め点検する。
	②洗浄機チラー水無駄使用をなくす	△	
	③水漏れ箇所修繕	△	
化学物質の適正管理	①リスクアセスメント実施	○	<ul style="list-style-type: none"> ・SDSの最新版管理とリスクアセスメントは漏れなく実施済み。 ・有害物質の表示も現場巡視で漏れなく対応した。 【次年度取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・新たに化学薬品管理者を設置し、化学薬品管理体制を強化する。
	②有害物質の表示の徹底	○	
	③従業員教育	○	
環境に配慮した製品・サービスへの取組	①ロングセラー商品の開発	○	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の蓋をフィルム化して廃プラ量を削減しているが、製造数は少ない。現在は商品開発を進めており、来期は製造数が増加する見込み。 【次年度取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・商品の蓋をフィルム化した商品へ移行を進める。
	②日持ちする商品の開発	○	
	③環境に配慮した包材の検討	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥、廃油）
食品リサイクル法	食品廃棄物
容器包装リサイクル法	容器包装
水質汚濁防止法	洗浄設備
下水道法	除害施設
浄化槽法	浄化槽
消防法（危険物）	危険物の保管
悪臭防止法	当社の活動
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫

24年2月に茶色く濁った水が工場から排出されてしまい、水質汚濁事故となってしまいました。有害物資などの流出はなく、人の健康、生活環境への被害はありませんでした。排水処理管理体制を設備の面でも強化し再発防止に努めます。

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年6月6日

エコアクション21認証年度から3期目を迎えた今期は、エコアクション21の活動が浸透してきたと感ずる。一方で各従業員のエコアクション21活動の取組の理解度に温度差がある事も感じ取れる。今年度の売上高実績は、昨年度にくらべ107.7%増加したが、温室効果ガスの排出量は、エコアクション21委員会の取組みにより昨年度に比べて、100.1%と横ばいとなった。各項目の実績を確認すると、当社の事業運営での温室効果ガスの排出に大きく影響する電力使用量は、製造数及び売上高が増加に伴い増加したが、百万円当たりの使用量は昨年度と比較して、減少している。これは、当委員会活動の成果と思われる。またLPGやガソリンの売上高百万円当たりの使用量も基準年度に比べて減少している。産業廃棄物である、食品残さ・廃プラ・段ボール・一斗缶等は、引き続き分野毎にリサイクルが仕組化されており、廃棄されることなく再利用されている。

さらに今期の活動実績として、新たなリサイクル企業と取引を開始して、未使用のプラスチック包装や、今まで廃棄されていた使わない機械設備等をリサイクル資源として有価物扱で買取して頂ける仕組みを構築しました。

来期は、これまで築き上げた仕組みに磨きをかけて深堀をしていき、森林等の植林事業への支援としてJクレジットの購入を検討して、更なる温室効果ガスの排出削減の取組活動を活性化させたいと思います。

- | | | |
|-----------|--|--|
| 環境経営方針 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり |
| 環境経営目標・計画 | <input type="checkbox"/> 変更なし | <input checked="" type="checkbox"/> 変更あり実績を踏まえて見直すこと |
| 実施体制他 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり |